

十二大従星中殺の世界

十大主星中殺の世界は、現象面での空間における異常変化(不自然融合)でしたが、これに対して、時間における、エネルギー部門の目に見える世界での世界での異常変化(不自然融合)の世界です。

表現をかえてわかりやすく云いますと、正常な状態での従星は、たとえば「天貴星」は長男・長女の役割、「天将星」は自我心が強く、帝王・頭領の星、「天庫星」は墓守り・正当なる長男長女の役目、などとされていますが、これらの星が中殺されますと、その星がもっている本来の性格は変わりませんが、本質・形態が変化してくるので、そのことからさまざまな中殺現象が現れて来るのであります。

天印星

この星は赤ん坊の時代です。赤ん坊の時代は、内面における意識や思考力の所有はありません。また赤ん坊自身は自分がどのような宿命のもとに生れて来たかなどという自覚はまったくないのです。ですから、この星には「無心」「甘受」「ユーモア」「無力の力量」などの表現の世界があります。

この星の世界ほど自分自身が自覚しないままに人の運命を変化させる星は他に例が見当たりません。それは、良きにつけ悪しきにつけ自分の周りにひとつの動きを無意識のうちにつくり出してしまって特徴があるのです。(つまり子供の可愛さに引かれ父親の働きに拍車がかかったり、成人すれば人ととの間に和をつくります。)

しかし、ときには作り出したご縁が悪い方へ転じることもあるでしょうが、ユーモラスな性情が悪気のない粗忽(そかつ)さとなるため、他人から恨まれることがないのは天性の福徳ともいえるでしょう。

また「甘受」という意味合いから、どのような人とも上手に交際できるという受け身の社交性をもちます。このような受け身の世界は常に現実的であり、過去に向かって思い出に頼ることもなく、未来に進んでロマンに生きるのではなく、常に現実のみをみて受け身の姿勢を崩さず自然体のままに生きて世渡りをする世界なのです。

なお、この天印星には「養子」星という意味があり、そこから長男・長女・一人っ子などの星とも云われている星です。(長男・長女の星、といわれる星には、この天印星のほかにも「天貴星」「天庫星」があります。「天貴星」は、長男・長女の役目をする星であり、「天庫星」は先祖の墓守りをする宿命する正当な長男・長女の星とされ、「天印星」のように養子の星という意味からの長男・長女と云う意味では差違がありますが、必ずしも養子になると云うことではありません。女の子で天印星をもっていますと実家とは縁がきれませんし、男の人にこの星があらわれると、配偶者の実家にあって長男の役目を果たすようになります)

天印星中

この星が中殺されますと、親はあるが、親以外の親縁といったものが出て来るのが特色です。この場合両親が揃っている場合と、そうでない場合の二通りがあります。両親が揃っている場合でも、例えば叔父さんとか叔母さん、または祖父母と言うような人に非常に可愛がられたりして、つまり親以外の親縁といったものが出て来るのが特色なのです。(これは、自分自身が自覚しないまま人の運命を変化させる…という逆の現象となり、自覚しないまま自分の運命を変化させられたようなものです)
両親が揃っていないくて、いわゆる親縁がない場合は、自分の「きょうだい」または祖父母が自分の親代わりをつとめてくれるような型となって出やすいのです。つまり「養子の逆」のような現象が出てきやすくなり親以外の親が出来るということなのです。(つまり二組以上の親の面倒をみることにもなるのです。)
この星の中殺者は、普通の人に比べて健康運に恵まれず、病弱になりがちですが、人によっては風邪ひとつひかず元気な人もいます。そのような人には中殺の移動現象(副現象)というものが現われて、身内をふくめた周囲の人たちの病気やケガで悩むになります。
この星が中殺されると、生き方が不安定になるのも特徴です。